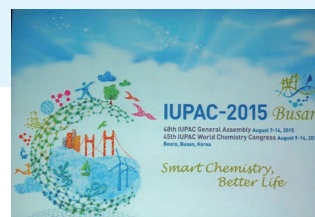




# 第48回IUPAC総会&第45回世界化学会議 に出席して



### IUPAC総会および世界化学会議

IUPAC（国際純正・応用化学連合）は、2年に1度、総会（General Assembly）と世界化学会議（World Chemistry Congress）を開催しており、今年8月、第48回IUPAC総会（2015年8月7日～14日）と第45回IUPAC世界化学会議（2015年8月9日～14日）が、大韓民国の釜山において開催された。

IUPAC総会では、専門分野の議題を取り扱うディビジョン・ミーティング、命名法やデータ標準化、化学教育、COCI、CHEMRAWN、など特定のトピックスを取り扱う常設委員会、これからの化学のあるべき姿を議論するワールド・ケミストリー・リーダーシップ・ミーティング、IUPACの決議機関であるカウンシル・ミーティングなどが開催された。また、優れた女性研究者を表彰する第3回 Distinguished Women in Chemistry/ Chemical Engineering の表彰式も行われた。

世界化学会議では、鈴木章・北大名誉教授をはじめとするノーベル化学賞受賞者らによる基調講演などが行われるとともに、約60カ国から世界中の化学研究者3,700名が集まり、各専門分野に分かれて研究発表および研究討論が活発に行われた。

竹内と所のIUPAC総会への日本学術会議からの代表派遣は、2年前のIstanbulでの会議に引き続き2回目であり、種々のミーティングに出席するとともに、世界化学会議にも参加した。



第48回IUPAC総会 & 第45回IUPAC世界化学会議開催地 BEXCO 釜山（大韓民国）

### ディビジョン・ミーティング

8つの専門分野（I：物理・生物物理化学、II：無機化学、III：有機・生物分子化学、IV：高分子、V：分析化学、VI：化学と環境、VII：化学と健康、VIII：化学命名法と構造標記）のディビジョン・ミーティングが行われ、所と竹内はそれぞれディビジョンI（Div. I）とV（Div. V）に出席した。

ディビジョン・ミーティングはDiv. I、Vともに、2日間行われ、各約20名の世界各国からの代表者により活発な議論が行われた。過去2年間の活動報告や、これからの活動の提案、現在進行中のプロジェクトの進捗状況報告、新規プロジェクト提案、ディビジョン間の連携活動についての報告などの議題について審議が行われた。今後の活動に関しては、書籍やWebサイトを介したディビジョン活動の進め方について詳細な議論が行われた。

Div. Iでは、物理化学 Cartoon 学生コンペの結果報告、現在進行中のグリーンブックの要約版を作成するプロジェクトや、パスト・プレジデントである山内薫・東大教授がプロジェクト・リーダー

を務めるレーザー化学に関するプロジェクトなど、23のプロジェクトすべてについて内容および進捗状況の確認作業を行った。

Div. Vでは、今年3月にPécs（ハンガリー）で開催されたミーティングの概要、オレンジブック改訂版の編纂、国際単位系SIの再定義などが報告され、内容を議論した。今回、オレンジブックのSurface Analysisの章を竹内が担当することに決まった。Solubility Dataに関する小委員会による“IUPAC-NIST Solubility Data Series”は、今年6月に記念すべき100巻を出版し、現在、103巻まで公開中である。このデータは、Webサイト（<http://srdata.nist.gov/solubility/IUPAC/iupac.aspx>）よりフリーアクセス利用が可能である。また、Div. I、II、Vの連携プロジェクトでは、高校生にモル（アボガドロ数）の概念を正確に教えるための議論が行われた。

### ワールド・ケミストリー・リーダーシップ・ミーティング (WCLM)

ミーティングの冒頭、このミーティングにおけるYoung Observerの役割が説明され、その後Young Observerが5つのチームに分けられ、各議題について討論を行った。議題のコンセプトは“Sustainable Development”。IUPACよりあらかじめ用意されていた17のゴールを参考に、各チームが議題を決定した。チーム1の議題は、“IUPACプロジェクトのインパクトとリソースの認知度の向上”、チーム2は“リン酸リサイクルの

状況評価”, チーム3は“サステナブル・触媒と実現のためのガイドライン”, チーム4は“水質汚染問題の解決”, チーム5は“水物語: 水質改善のためのリソース提供”であった。チーム3には日本からは所のほか、長谷川美貴・青学大教授が参加され、下記の3つのゴールを参考にして討論を行った: #9 サステナブルな産業化, #12 サステナブルなリサイクル, #17 サステナブルな開発に必要な世界規模の協力体制 (<https://sustainabledevelopment.un.org/sdgsproposal>)。各チームでそれぞれ議論を深め、討論の成果をプレゼンテーション形式で発表するとともに、IUPAC プロジェクトへの申請準備を行った。

### Women in Chemistry Award 表彰式および受賞記念講演会

“2015 Distinguished Women in Chemistry/Chemical Engineering”の表彰式が、8月11日に行われた。この賞はIUPACが2011年に世界化学年を記念し、世界の優れた女性化学者を顕彰する賞として定めた賞である。第3回となる今年は、12名の国際的に著名な女性研究者が選ばれ、日本からは川合真紀・理研/東大教授が表彰された。受賞を祝した記念講演会では、各国の女性研究者を取り巻く状況などについてのお話がなされた。特に川合先生は、ご自身のキャリアについて、研究者にとってたいへん参考になるエピソードを交えてわかりやすくご説明されたとともに、日本におけ

る女性研究者の状況(割合)について紹介された。



2015 Distinguished Women in Chemistry/Chemical Engineering 表彰式(右から2番めが川合先生)

### カウンスル・ミーティング

総会の終盤、8月12日と13日、加盟国の代表団出席のもとカウンスル・ミーティングが開催された。日本からは写真の Delegate のほかに川合真紀教授が出席された。正式加盟国(National Adhering Organization)は62となり、企業から構成されるIUPAC賛助会員は65社のうち日本が約38%を占める。過去2年間のIUPACの活動報告、IUPAP(国際純粋・応用物理学連合)など国際学術組織や各国化学会との連携活動など重要事項の報告がされた後、議決案の提示、承認および投票が行われた。2016-2017年の副会長は中国の Qi-Feng Zhou 氏に決定、巽和行・名大名誉教授の前会長の任期は本年末で終了し、2016-2017年の会長はロシアの Natalia Tarasova 氏(現副会長)に決定した。幹部役員 Bureau である山内先生の任期は2017年末まで続く。2016-2017年 Titular Member(TM) 選

出者が承認され、竹内が Div. V の TM の一人として承認された。財政状況(収入体制の見直し・強化)の説明があった。新元素(113, 115, 117, 118)の命名権については、今回は決定の報告はなく、今後のプロセスについて紹介があった。ただし、1ヵ月以内に決まる可能性があることが報告された。

今回は2017年7月に、初の南米での開催となるサンパウロ(ブラジル)で、2019年は、設立100周年記念として第1回大会が開催されたパリ(フランス)で開催されることになっている。



功績を讃えられる巽和行・IUPAC前会長(左から3番め)。最右は現会長の Mark Cesa 氏



Japanese Delegate および巽和行 IUPAC 前会長(右上)。Delegate は左上から所裕子/筑波大、川島信之/日本化学会常務理事、左下から竹内孝江/奈良女子大、山内薫/東大

[竹内孝江(奈良女子大学)・所 裕子(筑波大学)]

© 2015 The Chemical Society of Japan